



## 石川県における イナゴ類の発生状況

石川県農林総合研究センター 農業試験場

わたなべ  
渡邊

てるゆき  
照之

や お  
八尾

みつよし  
充睦

### はじめに

イナゴ類は、古来より農業や食生活と密接に関係してきた水稻害虫である。主にイネの葉を食害し、その加害期間は長く、特に幼穂形成期以降の激しい食害は籾数の減少や籾の稔実不良による減収を招く。食用昆虫としては江戸時代の文献にも登場し、近代において太平洋戦争中の食糧難のころにその豊富な栄養が話題になり、食品としてかなり注目された（三橋，1997）。現在でもイナゴ類は食卓に並び、小中学校などでイナゴとりが行事として行われている地域もある。また、昨年、本研究センターでは、地域との交流を図る試験場開放日に「昆虫食を食べてみよう」と題して、イナゴの佃煮とかき揚げを振舞い、好評を博した。

一般的によく見られるイナゴ類として全国的にはコバネイナゴ *Oxya yezoensis* が知られており、石川県における発生種も主にコバネイナゴであるとされてきた。近年、県内の一部地域の水稲作においてイナゴ類が増加傾向にあるが、自動販売機やコンビニエンスストアの明かりに多数飛来する様子も確認されており（図-1，2），これはハネナガイナゴ *O. japonica* による現象として茨城県でも観察されている（井上，2016）。そこで、県内各地におけるイナゴ類の発生種を明らかにするとともに発生密度調査を行い、その発生要因について考察したので報告する。

### I 発生種と発生密度

#### 1 調査地点と密度調査

調査は石川県加賀市2箇所、小松市2箇所、白山市3箇所、金沢市10箇所、津幡町2箇所、かほく市3箇所、羽咋市2箇所、中能登町2箇所、志賀町2箇所、能登町1箇所、輪島市1箇所の計11市町30地区（図-3）で行った。2018年8～10月にかけて、各地区2筆の水稲圃

Occurrence Status of Rice Grasshoppers, *Oxya yezoensis* and *O. japonica* in Ishikawa Prefecture. By Teruyuki WATANABE and Mitsuyoshi YAO

（キーワード：コバネイナゴ、ハネナガイナゴ、フィプロニル）



図-1 自動販売機の明かりに集まるイナゴ類  
（弘中満太郎博士 原図）



図-2 コンビニエンスストアの明かりに集まるイナゴ類  
（弘中満太郎博士 原図）

場において捕虫網（径36 cm）を用い20回振りのすくい取り法によって虫を採集した。捕獲した個体は室内に持ち帰り-20℃に冷凍保存し、室温で解凍後、虫種と虫数を調査した。また、詳細な調査を行うため、金沢市才田町、かほく市内高松、中能登町良川、志賀町徳田、能登町清真および輪島市町野町栗蔵では上述の方法のほか、20回振りによらず可能な限り成虫を採集し同様に